

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題  
事後評価報告書**

|          |                                    |
|----------|------------------------------------|
| 研究開発課題名  | 独自の反応基を利用した高選択的コバレントドラッグ開発プラットフォーム |
| 代表機関名    | 国立大学法人九州大学                         |
| 研究開発代表者名 | 進藤 直哉                              |
| 全研究開発期間  | 令和元年度～令和3年度                        |

**1. 研究開発成果**

事後報告書(下 URL)参照

<https://www.amed.go.jp/content/000101261.pdf>

**2. 総合評価**

・ 良い

**【評価コメント】**

独自に見出した CFA 基を活用して、当初標的とした KRAS G12C 変異体、P2Y6 受容体を対象に検討を着実に進め、加えて SARS-CoV-2 の Mpro を標的とした検討も実施し、標的毎に最適な反応基を見出すなど、全般的に重要な知見を得ており、コンセプト検証を進めたことは評価できる。ただし、まだ構造修飾の方向性などでは一定の指標を見出していない点がある。

今後、有益な医薬品創薬に結びつくよう、治療効果の検証実験も加え、創薬基盤技術として活用されていくことを期待する。

以上